

議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会委員長 椎塚 俊裕

視察日：令和7年2月4日（火）～5日（水）

視察先：滋賀県彦根市及び長浜市

目 的：議会改革先進地視察

日本列島に最強寒波が訪れる2月4日、5日、寒風吹きすさぶ中、議会改革先進地である滋賀県彦根市及び長浜市を訪れ、議会改革について現地視察及び意見交換会をさせていただきました。

滋賀県は、今回現地に行けませんでしたが大津市を先頭に近隣自治体がそれぞれに切磋琢磨しながら、先進的な議会改革を進めています。

今回、視察を受け入れて頂きました彦根市、長浜市には感謝を申し上げます。

両議会ともに、テーマが議会改革ということもあり、いずれも議会から議員が説明と質問に対応して頂きました。意見交換では、正に議員として聞きたい部分を同じ議員同士、同じ悩みを本音の部分で聞いたことは、今回の視察の大きな成果であったと思います。

1 彦根市議会

（1）視察対応について

- ・平成28年度までは事務局が説明していた（議員不在）
- ・視察先で、議会運営委員会や議員の説明を受けたことを期に、議会改革特別委員会（議員）が対応している。

（2）議会改革の取組

- ・広報広聴の3組織（議場開放促進委員会、広報委員会、広聴委員会）に議員が8人ずつ所属している。（全議員が3組織のいずれかに所属する）
- ・広報広聴調整会議（正副議長・各正副委員長で構成）を設置している。

（3）大学連携

- ・平成29年滋賀大学経済学部と連携及び協力に関する協定を締結した。

目的 地方自治及び地域社会の活性化と地域における人材育成に寄与する。

協力事項

- ①滋賀大学経済学部における教育・研究活動の充実・発展に資する事業
- ②彦根市議会における広報・広聴活動等、活動の充実・発展に関する事業
- ・令和3年にデータサイエンス学部が設置されたため国立大学法人滋賀大学と新たに連携・協力に関する協定を締結した。
- ・令和4年1月18日、議会報告会「カタリバ」で学生が進行を務めた。また、同年8月～9月に議員のインターンシップを実施した。

効果 学生の参画（議会報告会、授業での意見交換、インターンシップ等）を通して普段の議員活動では出会えない新たな視点を発見。また、学生の地方自治・地方議会への興味が深まり、地域創生を担う人材の育成へ。

- ・今後の取組として、滋賀大学にデータサイエンス部が設置されたことから、大学と協力してビッグデータを利活用することを検討している。



議会報告会「カタリバ」



滋賀大学と彦根市議会との
連携・協力に関する協定書調印式

（４）政策提言

- ・基本的に、常任委員会ごとに課題を整理して、議会報告会等で市民から意見を聞き執行部に提言をしている。

令和４年12月26日（福祉病院教育常任委員会所管分）

「図書館のあり方および業務内容について」

令和２年３月27日（福祉病院教育常任委員会所管分）

「学力向上に向けた、わかりやすい統一課題の設定とPDCAサイクルの徹底」

（５）子ども議会

目的 小学生が政治への関心を深めたり、社会参画への意欲を培うことと、保護者に市議会や行政の取組をより身近に感じてもらう。

対象 市内17小学校の小学６年生。最大24人（議員定数）

体制 執行部、教育委員会、議会の三者共催（学校との調整は教育委員会を仲介）

- ・体制ごとの役割

市議会（議場開放委員会）

子ども議会の運営全般、事前研修会、リハーサル、本番の進行補助等

教育委員会 市内17小学校との連絡、調整。子ども議員の質問書作成補助

市（企画課） 質問に対する答弁作成、子ども議会本番での答弁対応

- ・事前研修を８月（夏休み中）

子ども議員選出交付式（子ども議員のバッチの交付）

質問の仕方、質問書の作り方について議員より説明した。

- ・リハーサル（本番一週間前）

- ・本番：第１～３グループ それぞれ８人×５分 合計40～45分（授業時間程度）

議員は進行や資料揭示の手助け等、裏方でサポート

効果 子ども議員が議会や市制に関心を持つきっかけになり、議会をより身近に感じて
らえる。

課題 少子化の影響や学校イベント、習い事の多様化等で参加人数の減少が懸念される。

2 長浜市議会

(1) 議会基本条例の検証と改正

- ・平成25年9月定例会制定

「我々の仕事は何？」

⇒議決機関として市民に開かれた議会を目指し、議員一人一人の資質を上げること等を目的に制定。市民と共に議会改革を進める指針を示す

- ・議会基本条例検証の手順

〈事前準備〉検証の手順の決定

〈ステップ1〉検証チェックシートによる自己検証

〈ステップ2〉検証結果のとりまとめ

〈ステップ3〉外部有識者との意見交換

〈ステップ4〉最終とりまとめ・公表

- ・外部有識者として龍谷大学の教授を紹介して頂き、自己検証作業に取り組むにあたり、全議員対象に議員研修を開催、さらに議会運営委員会へ招聘し、最終的に自己検証結果をとりまとめるにあたり、同委員会で助言をいただいた。

- ・議会基本条例の検証結果

要検討 議長・副議長選挙の透明化等 5項目

改善・拡充 市民の皆様との意見交換会の実施等 3項目

継続項目 議会だよりの発行等 21項目

議会活性化委員会で一項目ごとに対応原案を作成し、議長に報告する。

課題 評価や達成度に対する個人差（考え方や支店の違い）が大きいことや、研修や自己研鑽の必要性を感じる。

今後の取組 常任委員会の代表質問の導入や政策討論の実施に向けた検討等、2回目の検証として始めている。

(2) 施策討論及び政策提言について

- ・議論の場については、各常任委員会において実施をし、政策討論会を開催する。討論テーマは、市民からの意見や請願審査内容等の結果や過程から抽出している。
- ・委員会で議論の結果、意見が集約された場合、適宜必要な措置を講じ、提言書を作成し委員長から議長へ申し入れる。議長は提言内容を全員協議会で確認し、議長から市長及び関係機関に送付する。その後は、当初予算等への反映について評価する。

これまでの政策提言

テーマ『～すべての人が輝ける長浜市に～』 令和6年6月3日 総務教育常任委員会
男女共同参画のさらなる推進に積極的な取り組みを求める

テーマ『観光・商業振興施策の充実に向けた提言～観光・商業ALLながはま再稼働～』

令和3年12月21日 産業建設常任委員会

交流人口の拡大、にぎわいの創出による地域経済の活性化を図ること。

(3) 音声認識表示システムについて

- ・本会議において聴覚障がいのある方などを含め、どなたでも傍聴していただければ議論の内容がより理解できる環境を整える。
- ・令和5年3月8日から運用開始、令和6年8月より、議場・委員会室の音響システムを改修したことで、議場内モニターや委員会室モニターにも字幕を表示出来るようになった。

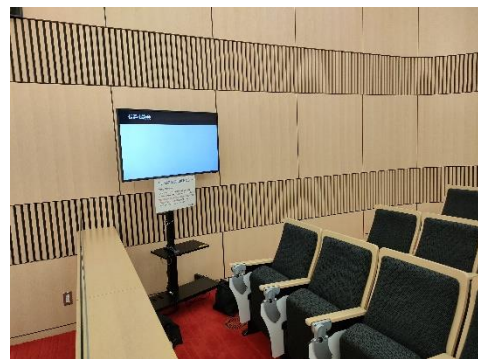
初期導入費用 1,012,000円 東和エンジニアリング

ランニングコスト システムライセンス料 70,000円/年

- ・AI機能がないため、議員及び市当局職員が変わるときは、その都度入力をする必要がある。



会議室には数台のモニターが
設置されています



音声認識表示システムのモニター
(本会議場傍聴席)

(4) タブレット・ペーパーレス会議システムについて

議員 議案書・委員会資料等をタブレット上で即座に確認でき、利便性の向上
資料の拡大表示や過去のデータ参照が可能となり、審査が充実・効率化
議会報告や市民からの問い合わせに、詳細な資料を用いての説明が可能

執行部 議案書、委員会資料をデータ化して作成、提出することによる印刷代の削減
印刷した資料の仕分け等にかかる時間の削減
カラーで作成した資料も提示可能

事務局 情報伝達の迅速化
議会公務、議長公務の予定がデータ化でき情報共有面の迅速化
議案書、委員会資料の配布労力の効率化

効果

議会事務局紙使用量 令和元年（本格導入前）172,255枚

⇒令和3年（本格実施後） 81,192枚 約53%減

課題

- ・タブレットの取り扱いに個人差がある。
 - ・機器更新時、市場の端末不足により確保が不透明
 - ・資料を複数同時に見比べることが困難
- ⇒パソコン・スマホの議場・委員会室への持ち込み許可